



水戸市植物公園



National
Collection

認定

ナショナルコレクション

未来に残すべき
園芸文化遺産

水戸のウメ コレクション

水戸市植物公園と偕楽園で保存するウメの品種が「水戸のウメ」として
(公社)日本植物園協会ナショナルコレクションに認定されました。

江戸時代から栽培され続けた古典的な品種や

水戸で生まれた品種など130品種が

次世代に残すべき価値のあるコレクションとして認められました。

歴史と魅力を紹介します。

ナショナルコレクション認定制度

秋篠宮皇嗣殿下が総裁をお務めになる(公社)日本植物園協会が制定した認定制度。野生種、栽培種に関わらず日本で栽培されている文化財、遺伝資源として貴重な植物を守り後世に伝えていくことを目的とした植物コレクションの認定、保全制度です。

1 徳川齊昭から始まった水戸のウメ物語

水戸市植物公園 ウメコレクション

茨城県水戸市にある偕楽園は日本3名園の1つで天保13(1842)年に水戸藩九代藩主徳川齊昭(1800~1860)によって造園されました。江戸最後の将軍徳川慶喜の父で幕末期を代表する名君の一人と評されていますが、水戸は齊昭のおかげでウメの町になりました。

齊昭は江戸で生まれ幼い頃からウメに囲まれて育ち、水戸藩主となり始めて水戸を訪れた際、ウメが少ないことを知り驚きました。江戸に戻ると自ら屋敷の梅の実を集め、毎年水戸に送り領内の家々まで植えさせました。

齊昭がウメを植えた理由は、特別史跡の旧弘道館八卦堂の南約15mに位置する「種梅記碑」に自筆の隸書で刻まれているので、わかりやすく紹介します。



弘道館で咲くウメ



種梅記碑

「少年の頃から梅が好きで(江戸小石川の)庭内に、数十株を植えて楽しんでいた。(天保4年1833年)初めて水戸に来たら梅が非常に少ないことに驚き、江戸に戻ると毎年自ら屋敷の実を集めて水戸に送り、偕楽園などに植えさせた。(7年後)再び水戸を訪れると梅林ができ花が咲き実を結んでいた。弘道館も状態がよく数千株を側に植え、領民にも苗木を配布し植えさせた。」

種梅記碑には齊昭が梅を重宝した理由についても述べられています。

- ①雪の中でも先駆けて咲き、詩歌の題材になる
- ②果実には酸が含まれ、喉の渴きを取り、疲れを癒す。
- ③梅干しは保存がきくので、軍事の際の非常食として役立つ

「梅の備えがあれば憂いなし。後人のためにこれを記す」とまとめています。

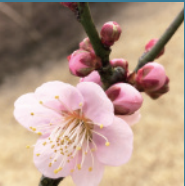
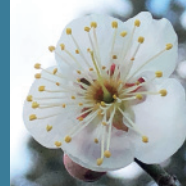
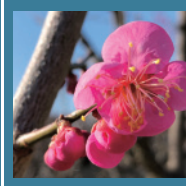
2 偕楽園のウメ

水戸市植物公園 ウメコレクション

昭和7(1932)年に茨城県が茨城博物同好会に梅の調査を依頼し、水戸高等学校教授の野原茂六が主任になり、鶴町猷(はかる)、斎藤宇内などが偕楽園と弘道館公園内にあるすべてのウメの品種の調査・研究を行いました。

この結果、名木として約40種を選びこのうち「烈公梅、白難波、虎の尾、月影、江南所無、柳川枝垂」の6品種を、昭和9(1934)年に花形・香り・色などが特に優れている「水戸の六名木」としました。前年には当時の梅の権威者で知られる平尾彦太郎氏が

偕楽園に「古今集、佐橋紅、道知辺、日月、蟬出の鷹、春日野、東の都、鈴鹿の関、八朔梅、雪の曙、国光」を、弘道館公園に「旭鶴、一重寒紅、常成、金獅子、関守、緋梅、巻立山、桃園、蝶の花形」を寄贈しました。昭和20(1945)年の水戸空襲を受けウメは多くが枯死しました。茨城県は昭和29(1954)年から苗木を購入し花ウメを中心に70品種を導入。現在は約100品種を数え、観梅期には多くの観光客で賑わっています。

							
1 烈公梅 レッコウバイ	2 白難波 シロナニワ	3 虎の尾 トラノオ	4 月影 ツキカゲ	5 江南所無 コウナンショム	6 古今集 コキンシュウ	7 佐橋紅 サバシコウ	8 道知辺 ミチシルベ
野梅系	スモモ系	スモモ系	野梅系	アズズ系	野梅系	スモモ系	野梅系
一重咲き	八重咲き	八重咲き	一重咲き	八重咲き	一重咲き	一重咲き	一重咲き
紅	白	白	青白	紅	移り白	濃紅	紅
徳川齊昭(烈公)に因む	早咲きの品種	『梅花集』 『梅花名品集』に掲載	池に映った月を 思わせる素晴らしい花形	抱咲良花。中国の古い品種と言われる	大輪。満開になると平咲きになる	中輪。丸弁。派手で愛らしい花形	大輪。満開過ぎに淡紫紅の移り色になる

上から 品種名(読み方)、園芸上の分類、咲き方、花の色、備考

*主な花の色と特徴

- 濃紅：濃い紅色 ●紅：紅色 ●淡紅：淡いピンク ●極淡紅：淡紅よりもさらに淡い色 ●移り紅：蕾のうちは白色、開花するとピンク
- 移り白：蕾のうちはピンク。開花すると白色に変わる。 ●白：雪白、青白色、黄白色、乳白色など ●黄色：ごく淡い黄
- 絞り：普通の絞りの他に半染め、吹きかけ絞り、吹きかけ、底紅、覆輪など ●覆輪：花弁の縁が白で内側が紅色
- 口紅：花弁のまわりが紅、花心部が淡色 ●底紅：口紅の反対で、まわりが淡色か白、中心部が紅 ●裏紅：花べんの裏が紅で表は淡い色

3 水戸市植物公園のウメ

水戸市植物公園 ウメコレクション

水戸市植物公園は昭和 62(1987) 年に水戸市が設置した洋風庭園で、建築家の瀧光夫(1936～2016)が温室をはじめ全体設計を行ないました。観賞大温室は内部や外観ともに美的要素を取り込んだもので昭和 63(1988) 年に(公社)日本造園学会設計作品部門で日本造園学会賞を受賞しました。

梅林は、旧水戸市園芸指導センターで栽培していたウメを、昭和 61(1986) 年 4 月に現在の管理事務所周辺の東西 2 箇所に移植しました。

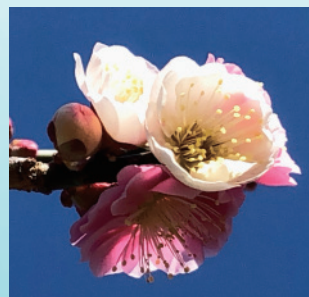
さらに水戸市元吉田町天神山にある古典園芸植物を扱う「天神山木楽園」(故 寺門忠之氏)が収集したコレクションを加えました。その苗木は水戸市内でウメ栽培を営む茂垣勝男氏が台木栽培を行い、新たに育てたものでした。

1 品種につき概ね 3 本、合計約 400 本 150 品種が梅林に植えられました。

令和 2(2020) 年に梅林の管理は農業部門から都市計画部(公園緑地課)に移り、翌年から水戸市植物公園が担当になり、約 35 年を経て調査を始めました。



春日野



輪違い

コレクションの特徴は、江戸時代の梅図譜で紹介された古典的な品種が多く、後世に引き継ぐべき貴重なものです。

また「天神山木楽園」の園主は古典園芸植物を扱っていたので、花ウメを中心に趣味人好みの風流な良花を好み、花の咲き方や花の色、枝に模様が入るなどの特徴的な形質をもった品種を多く集めました。

「無類絞り、司絞り、春日野、長谷川絞」などの絞り咲き、「輪違い、都錦」の咲き分け、個性的な花色の「黄金鶴、鈴鹿の関」のほか、「筋入り冬至、堀出の錦、司絞り、筋入り春日野、筋入り道知辺、天守閣」のように、枝に斑が入る珍しい品種もあります。

水戸の歴史にちなんだ品種「家康、光圀、烈公梅、黄門しだれ」のほか、天神山木楽園が作出した「天守閣」、茂垣勝男氏作出の「寿」があります。

コレクションは次のように大別しました。

(分類には品種の重複あり)

1 古典的な品種

2 形質に特徴がある品種～花の絞り、咲き分け、枝に斑が入る、花の色、咲き方など

3 梅の文化や水戸にちなんだ品種

*「古典的な品種」は古い文献に掲載された品種と同じ品種を選び出した。

- 1 昭和 7～9 年と昭和 29 年に偕楽園で栽培されていた品種
- 2 小石川植物園所蔵の江戸時代に制作されて小石川御薬園に保存された『梅花正寫』の品種
- 3 明治 15 年 3 月に賀来飛霞が小石川植物園に栽培されていた梅を著した『小石川植物園梅品』の品種
- 4 神代植物公園所蔵の文化 8 年に春田四郎五郎久啓が著した『韻勝園梅譜いんしょうえんばいふ』の品種

4 水戸市植物公園のウメ 古典的な品種 1

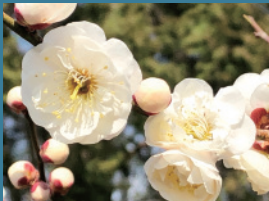
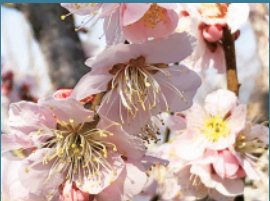
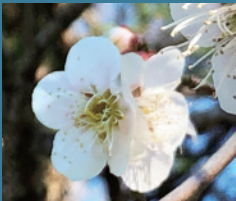
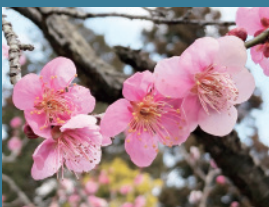
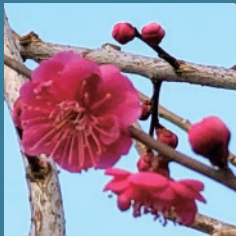
水戸市植物公園 ウメコレクション

古い文献に掲載された品種

					
9 大湊 オオミナト	10 旭鶴 アサヒツル	11 叡山白 エイザンハク	12 黄金梅 オウゴンバイ	13 開運 カイウン	14 鹿児島紅 カゴシマコウ
野梅系・一重咲き	野梅系・一重咲き	野梅系・八重咲き	野梅系・一重咲き	アズミ系・八重咲き	野梅系・八重咲き
淡紅	白にわずかな紅	白色だが、蕾の時は淡紅色	淡黄	淡紅	濃紅
『韻勝園梅譜』で奇品と紹介。梅番付で大関	明治時代の「三鶴名花」の1つ	大輪。花香が高い品種	花弁が非常に細い。梅花で唯一の黄花	中輪。遅咲き。樹皮が粗皮になる	中輪。つぼみも濃い色で目立つ
					
15 通い小町 カヨイコマチ	16 黒田 クロダ	17 見驚 ケンキョウ	18 古郷の錦 コキョウノニシキ	19 御所紅 ゴショベニ	20 流芳 リュウホウ
野梅系・一重咲き	アズミ系・八重咲き	野梅系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	野梅系・一重咲き
淡紅	紅	淡紅	淡紅	淡紅	白
中輪。花弁に大きな波があり紅色の筋が入る	大輪。極遅咲き	大輪。初め淡い紅色で後に白くなる	花弁が波打っている	中輪。京都御所から伝わる品種	芳香が強い

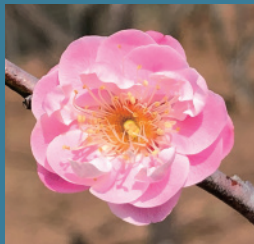
5 水戸市植物公園のウメ 古典的な品種 2

水戸市植物公園 ウメコレクション

					
21 残雪 ザンセツ	22 麝香梅 ジャコウバイ	23 西王母 セイオウボ	24 泰平 タイハイ	25 高砂 タカサゴ	26 玉牡丹 ギョクボタン
野梅系・八重咲き	野梅系・八重咲き	アズキ系・一重咲き	実ウメ・一重咲き	アズキ系・八重咲き	野梅系・八重咲き
白	白	淡紅裏濃い 口紅ぼかし 一重	白	白	移り白
花は浅い碗形から 平らに展開する	香り高し。名前は 清香が強いため	紅筆と花が似る。 紅筆は葉が紅葉す るが薄黄色になる	「白加賀」の 受粉樹に良い	太宰府天満宮の 銘品	明治時代の銘花 日本三牡丹の1 つ。咲き始めが 牡丹のよう
					
27 難波紅 ナニワコウ	28 雛曇 ヒナグモリ	29 緋の司 ヒノツカサ	30 紅千鳥 ベニチドリ	31 文珠 モンジュ	32 水心鏡 スイシンキョウ
スモモ系・八重咲き	スモモ系・一重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・一重咲き	スモモ系・八重咲き	野梅系・八重咲き
紅	淡紅	濃紅	濃紅	極淡紅	移り白
遅咲き。中輪	中輪。五弁抱え咲	早咲き。中輪	中輪。旗弁が出 るのが特徴。	大輪。香氣高し	咲き始めは黄白 色で満開時に白

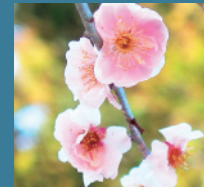
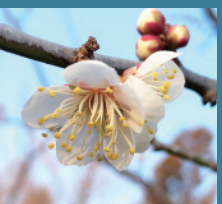
6 水戸市植物公園のウメ 花の絞り、咲き分け、枝に斑がある品種

水戸市植物公園 ウメコレクション

					
33 無類絞り ムルイシボリ	34 司絞り ツカサシボリ	35 春日野 カスガノ	36 長谷川絞り ハセガワシボリ	37 輪違い フチガイ	38 都錦 ミヤコニシキ
スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き
裏紅、 細かい吹きかけ絞り	吹きかけ絞り、 紅白咲き分け	白花の中に紅白咲き 分け、絞りが入る	移り白、内側に 多い	絞りと紅白咲き分け	淡紅で裏紅
他に類のない絞りの 意味	蕾をむくと赤の絞りが 少々入っている	「輪違い」に似る が萼色が違う	大輪。萼は紅	別名「思いのまま」。人気種	中輪。紅白咲き 分けが若干ある
					
39 月宮殿 ゲッキュウデン	40 月宮殿 ゲッキュウデン	41 筋入り冬至 スジイリトウジ	42 峙出の錦 トヤデノニシキ	43 筋入り春日野 スジイリカスガノ	44 筋入り道知辺 スジイリミチシルベ
野梅系・八重咲き		野梅系・一重咲き	野梅系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	野梅系・一重咲き
黄白色だが淡紅の花も出る		白	紅 ＊錦は斑のこと	白花の中に紅白咲き 分け、絞りが入る	紅
枝変わりが出やすい品種。 大輪。遅咲き。昔、中国 より渡来。		不明確な筋が枝に 入るが、なかなか 見えにくい	若い枝に虎斑が 入る。夏に枝が 赤く染まる	枝に筋が入る	色合い、形とも 銘品。枝に斑が 入る

7 水戸市植物公園のウメ 花の色、咲き方に特徴がある品種

水戸市植物公園 ウメコレクション

						
45 入日の海 イリヒノウミ	46 未開江 ミカイコウ	47 黄金鶴 コガネヅル	48 茶青花 チャセイカ	49 雲井 クモイ	50 甲州野梅 コウシュウヤバイ	51 夏衣 ナツコロモ
アンズ系・ 一重咲き	野梅系・ 八重抱え咲き	野梅系・ 八重咲き	野梅系・ 一重咲き	アンズ系・ 八重咲き	野梅系・ 一重咲き	スモモ系・ 一重咲き
極淡紅	淡紅	黄白 裏茶絞り	青白	淡紅。中心ほ ど紅色が薄い	白	濃紅 内側が濃い
五弁良花	中輪。 京都誓願寺 長仙院の出	大輪。花弁が 多く弁先に波 がある。珍品	大輪。茶青花 は植木屋の名。 梅番付で大関	移り色の大輪。 この系統での 名花	代表的な野梅 の1つ。枝が 極めて細い	大輪。抱え咲 き。古い品種。 異色の花色
						
52 春の粧 ハルノヨソオイ	53 藤牡丹枝垂 フジボタンシダレ	54 北斗星 ホクトセイ	55 内裏 ダイリ	56 田毎の月 タゴトノツキ	57 鈴鹿の関 スズカノセキ	58 東雲 シノノメ
野梅系・八重咲き	枝垂系・八重咲き	野梅系・一重咲き	アンズ系・一重、半八重咲き	野梅系・一重咲き	スモモ系・一重咲き	スモモ系・一重咲き
淡黄白	淡紅	白	裏淡紅色。抱 え咲き最美麗	白	底紅で裏側が 紅	淡紅
花は大柄で優雅	枝垂の大輪。 人気品種	満開で花弁が反 り返る。花形は 星状	裏紅のぼかしが 花の美しさを引 き立てている	咲きだしは花形 丸く、田に映る 月を思わせる	中輪。白覆輪が 鮮明	中輪。底紅で、 花弁の赤筋が 特徴

8 水戸市植物公園のウメ 梅の文化や水戸にちなんだ品種

水戸市植物公園 ウメコレクション

				
59 光輝 コウキ	60 五節の舞 ゴセチノマイ	61 蘇芳梅 スオウバイ	62 家康梅 イエヤスバイ	63 寿 コトブキ
スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き	スモモ系・八重咲き
紅	紅	濃紅 裏紅でぼかし模様	紅褐色	裏淡紅。 正面は乳白色
中輪。満開になると平たく見える。 『梅花名品集』に載る	中輪。花弁に大きな波がある。天女が舞った 故事から命名された	中輪。花弁に波があり花形は平に見える。 江戸時代からの八重咲きの銘品	徳川家康にちなんだ名前	紅梅で白花。 茂垣勝男氏の作出

参 考

ウメの品種図鑑 梅田 操著 誠文堂新光社
 梅と櫻 社団法人日本公園緑地協会
 園芸植物大事典1 小学館
 小石川植物園梅品 賀来飛霞著